(一) 第728号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THEMIIKE　(毎月1・16日発行)　昭和38年(1963)4月1日　(月)

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市下知火町2
電話 3033 7140 番
編集兼発行人 遊田紀生

第三次合理化を!!
組合ぶつつぶしの責任追及撤回を!!
平和斗争の推進を!!
全組合員・家族が団結してたたかい抜こう。

革新市政を守ろう

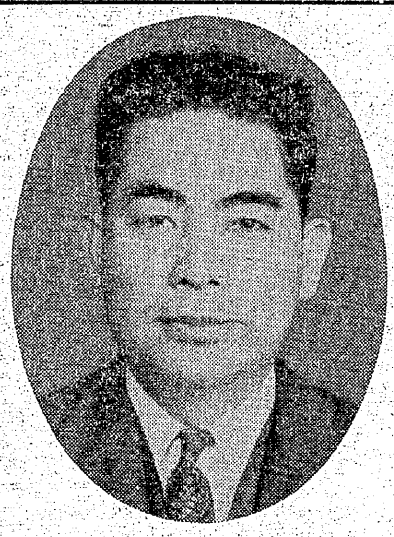
市長候補に坪沼氏を決定

大牟田市長候補は、過去八年間の革新市政の成果を確立するために、三たび、われわれの代表を当選させねばならない。このために細谷市長の立候補が強く望まれていたが、細谷市長の三選反対の意志が強く、新しい候補者を立てることになった。この結果、昭和三〇年、大牟田市経済部長として、また三一年から三四年まで市助役として活躍された現福岡県総務部長坪沼寿義氏の立候補が決定した。

坪沼氏は、特に農政通として有名であり、大牟田市役所時代に行つた有明海の水産行政、特にノリの生産にふるわれた手腕は高く評価されている。対立候補としては、三井独占の後押しを受けた三井の太番頭、円仏氏がすでに早くから運動を進めている。

われわれは、平和斗争に勝利することが第三次合理化をはね返し反撃を強化することや、組合ぶつつぶしのための責任追及を撤回させるために大きな一歩となることをはつきりと自覚し、組織の総力を結集して、組織決定候補の必勝のために斗い抜こう。

なお、三月二十二日には午後五時から荒尾公園で大地評傘下約二万人の組合員が集り「春斗諸要求貫徹、革新市政を守りぬく市民大会」が開かれ大牟田市長候補が決定されたが、細谷市長、市議会議長の挨拶ののち坪沼氏は知事代理として、はじめてわれわれの前に姿をみせ、大要つぎのように決意をあきらかにした。



大牟田市長候補
坪沼寿義

福岡県議候補 浦川守

参議院補選候補 小宮市太郎

福岡県知事候補 う崎多一

大牟田市議候補 湯村誠男

大牟田市議候補 蓮尾信次郎

熊本県議候補 酒井善為

大牟田市議候補 中川末義

大牟田市議候補 月足康則

大牟田市議候補 田中貞夫

荒尾市議候候補 坂本敏雄

荒尾市議候補 小森隆一

荒尾市議候補 浦濱眞光

山川村議候補 江崎次郎

荒尾市議候補 福川次郎

荒尾市議候補 益田武利

大牟田に骨を埋める

「過去四年間は、わが革新県政は苦難の連続であった。この困難にもかかわらず、労働者階級の力にささえられて、う崎県政は着々と成果をつみあげてきた。この実績のつみあげと、革新陣営の一致団結した結果が、北九州市長選挙の勝利となってあらわれたのである。

大牟田での過去八年間の細谷市政は、市政を労働者のために、市民のためのものとしてきた。

大牟田での革新市政の成果は大牟田に、日本革命のいしづえをはっきりと築いたということである。私の任務はこの細谷市政の成果をひきつぎ、さらに発展させることであろう。

私は昭和三十年に命をすてたものと思っている。これ以上は、私の骨はどこに埋めようと自由である。私の大牟田に骨を埋める決意をした。みなさんとともに全力をあげて頑張りたい」。

このあと小野県評議長、社会党共産党代表の挨拶があり、三池主婦会五島会長の決意表明を最後に全員革新県政、革新市政を守りぬくために全力をつくすことを決意し、デモ行進にうつった。

坪沼氏の経歴

大正四年二月七日生れ、四十八才

【学歴】

昭和十三年三月　東京大学農学部農業経済学科卒

【職歴】

昭和一三年　大臣官房調査課勤務
昭和一五年　農林技手
昭和一六年　兵役
昭和二一年　復員、農林技官
昭和二五年　農業総合研究所勤務
昭和三〇年　大牟田市経済部長
昭和三一年一一月　大牟田市助役
昭和三四年八月　福岡県商工水産部長
昭和三六年一月　福岡県総務部長

現在に至る。

組織決定候補16名 全力あげて勝抜こう

去る三月三十一日の団結大運動会の朝、九時より九時十分まで、延命球場で開らかれた第十四回中央委員会で、大地評推薦の県知事候補う崎多一氏(社・現)、参議院補選候補小宮市太郎氏(社・新)大牟田市長候補坪沼寿義氏(無・新)をそれぞれ三池労組としても推薦することを決定した。

大牟田市長候補については、去る三月二十二日、坪沼氏の大地評推薦が発表されていたものである。

過去八年間の革新市政の成果をさらに推しすすめ、合理化に反対する労働者の団結の力を示すために、大牟田に革新市政を実現させよう。

地方選、春斗の勝利を誓い

福岡で七万人が結集

去る三月二十四日、福岡県安保共斗、福岡県春斗共斗主催の「日韓会談反対、板付基地粉砕、地方選挙勝利、春斗諸要求貫徹」県民大集会が約七万人の参加のもとに福岡市東公園で開かれた。

この大集会では、板付基地の補助滑走路を米軍が勝手に拡張しかけたという事件の後だけに、知事選、参議補選、地方選と結びつけて行われた。

挨拶に立つた社共両党の代表はそれぞれ、「福岡県知事選挙の勝利は基地拡張を阻止し、日韓会談粉砕、反合理化の斗いと直接結びつく。知事選の重要さを全労働者がなまなましく受取り、団結して最後まで斗おう」と述べた。

立候補をすませたばかりの鵜崎多一知事候補(社)も「革新県政はぜがひでも守り抜かねばならない」と力強く視聴をのべた。

選挙日程

	告示日	投票日
県知事	3月23日	4月17日
県会議員	4月2日	4月17日
市長	4月20日	4月30日
市議会議員	4月20日	4月30日
町長	4月23日	4月30日
町会議員	4月23日	4月30日
村長	4月23日	4月30日
村会議員	4月23日	4月30日
参議院補選	3月17日	4月9日
×	×	×

主張 統一地方選挙を勝ち抜こう

われわれの構え

われわれは第三次合理化をはね返す斗いを決意するに当って基本的な構えを次のように全員で意志統一した。

(1)労働者の生活と組合活動を弾圧せんとするのは、たんに一企業一産業の企図にとどまらず独占資本全体の野望である。

日本の独占資本が自己の競争力を確立し、自由化の荒波をなんとか乗りきり、資本主義体制維持を図るという必死の努力なのである。したがって国内における合理化攻勢はますますはげしさを加え、政治的にもますます反動的たらざるを得ない実態である。

(3)われわれは、こういう情勢から体制的な反独占斗争が基本的な構えとならねばならない。すなわち、職場における抵抗斗争を基本として政治的諸問題に対する斗いをも結合させ、われわれ独自の斗い、統一的斗い、さらには地域住民との共斗をふくめて、幅広い抵抗、反撃の斗いを組むことが確認された。

地方選挙は、われわれのこのような構えのなかに重要な地位をしめるものである。

革新県政、市政の課題

われわれにきびしい合理化をかけてきている独占資本は、国家権力を通じてあらゆる政策によって、みずからの利益を擁護しようとしている。この結果、「中央に通じる地方自治」は、地方政治を独占資本に奉仕させようとする甘言であることは自明である。

たとえば大牟田では、三井が鉱山税を正しく納めなかったり鉱害復旧をいいかげんに処置したり、水利権をわがもの顔に握ってはなそうとしないことなど三井が自己に不利益になることは、たとえ義務であってもそれを守らないことを示している。

このような三井の専制的な市政支配を打破し、全市一体となった「住民のための政治」の実現、失業に反対し雇用の安定を斗いとることこそ革新市政の課題であり意義である。う崎県政細谷市政の実績はそのことをはっきりと示している。

三池労働者は今こそ訴えよう

三井独占の悪らつきわまる搾取と分裂政策に抗して、明るい未来を展望しつつ頑強に斗っているわれわれは、こんどの地方選挙で革新県政、市政を名実ともに確立することが、われわれだけでなく日本全体の労働者にかかっている合理化をはね返すためにもっとも重要な足がかりをつかむことであり、民衆の敵と化した日本独占資本に痛烈な一撃を加えることとなることをねばりづよく訴えよう。

全組合員、家族が一票一票をわれわれの側に獲得していくことが、われわれの斗いを地域に広げることに直結する事実をあらためて認識し、全員の総力を結集しよう。